佳作　母が亡くなってから一年以上経ちましたが

ウィウィン　ウィナルティ
WIWIN WINARTI
国　　籍　インドネシア
職　　種　電子機器組立て
実習実施者　テクノセンター株式会社
監 理 団 体　モノつくり事業協同組合

昨年、私は母親を亡くしてどれほど悲しいかを話しました。母が亡くなったのは2022年10月17日で、それから１年半が経ちました。この物語では、母を亡くした後の私と家族の家庭での状況についてお話します。

母は40歳で亡くなり、当時私が22さいになるまで付き添ってくれました。でも、私が18さいになるとマレーシアで働くことになったので、一緒に住んだのは18さいになるまでだけでした。私は18歳から22歳までで両親からはなれていました。私はマレーシアで４年間働いていますが、両親からはなれていました。私はマレーシアで４年間働いていていますが、両親から遠くはなれて暮らしているため、両親とすごす時間、特に母親とすごす時間が少なくなります。

2022年３月にマレーシアからきこくしました。初めて両親や弟たちと再会した時の思い出は今でもよく覚えています。４年ぶりに再会できてとてもうれしくて泣きました。私は父と母と喜んでだき合い、りょうしんにさいかいできたことにとてもかんしゃしました。それから私は家にかえり、すうにちかんかでりょうしんと私は一緒に食事をしたり、いっしょにりょこうしたり、いっしょにあそんだり、その他にもたくさんのことを家族といっしょにすごしました。

マレーシアからきこくご。母に会うと、なぜかいつもだきしめたくなるのです。そんな時も私は母親に甘えることがたえませんでした。マレシアからきこくして２か月ご、日本語をまなぶためにがっこうにかよいはじめました。そして週に２日は実家にかえります。がっこうがいそがしかったとき、がっこうにしゅうちゅうすることに焦っていたので、母と十分なじかんがとれなかったことがこうかいの一つです。マレシアからかえってきたとき、母は以前とちがって少し痩せていたように見えました。母がめったに食べないからだと思っていましたが、そのときすでに母は病気のせいで体調を崩を崩していたことが分かりました。母がどんな病気を患っていたのか知らなかったので、とてもかなしくて申し訳ありません。また母といっしょにもっとじかんをすごすことができないことにざいあくかんをかんじています。すうかげつご、母が亡くなり、私も仕事で日本へ出発したのち、ラマダンの月がやって来ました。そしてさくねん、せいかくに言うと母のいないラマダンのさいしょの月でした。すべてが明らかにちがうようにかんじます。母がいなくなったとき、家はしずかでしずかに見えました。私は父に同情しました、父は母のしをかなしみつづけました。何か月もたち、１年たっても母がいなくなったことがまだしんじられませんでした。そして、私は今、父とおとうととといっしょにすんでいないので、ざいあくかんもかんじています。しかし、私はまたかていでかぞくの経済をたすけるためにねっしんにはたらきつづければなりません。